

# 被災地の方言の特徴

田 附 敏 尚

## 1 はじめに

ここでは、全体にかかわる二つの基本的な事項を確認していく。

一つは、東日本大震災における「被災地はどこか」という点であり、もう一つは、「被災地の方言はどんな方言か」という点である。以下において、総務省統計局や警察庁、経済産業省のデータなどにより被災地と被害状況を確認したのち、その被災地のごく基本的な方言の特徴を概観していく。

## 2 被災地はどこか

今回の震災において、被災地と考えられる地域は大きく2つに分かれる。一つは、津波による被害地域、もう一つは福島第一原発事故の影響が大きい地域である。

まず、以下に総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所の web サイト (<http://www.stat.go.jp/info/shinsai/index.htm>) にある浸水地域の統計情報と地図情報を掲げる。

浸水範囲概況にかかる人口・世帯数（平成22年国勢調査人口速報集計結果による）

地域		浸水範囲概況にかかる人口及び世帯数(a)		当該市区町村の人口及び世帯数(b)		浸水範囲概況の割合(%) (a)÷(b)×100	
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
02 青森県	203 八戸市	5,229	1,760	237,473	91,925	2.2	1.9
	207 三沢市	1,924	589	41,260	16,246	4.7	3.6
	411 六ヶ所村	3,453	1,349	11,092	4,751	31.1	28.4
	412 おいらせ町	3,820	1,203	24,188	8,329	15.8	14.4
	424 東通村	223	81	7,253	2,710	3.1	3.0
	446 階上町	1,189	393	14,702	5,705	8.1	6.9
	合 計	15,838	5,375	335,968	129,666	4.7	4.1

03 岩手県	市区町村	人口		世帯数		人口		世帯数	
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数		
202	宮古市	18,378	7,209	59,442	22,504	30.9	32.0		
203	大船渡市	19,073	6,957	40,738	14,814	46.8	47.0		
207	久慈市	7,171	2,553	36,875	14,015	19.4	18.2		
210	陸前高田市	16,640	5,592	23,302	7,794	71.4	71.7		
211	釜石市	13,164	5,235	39,578	16,095	33.3	32.5		
461	大槌町	11,915	4,614	15,277	5,674	78.0	81.3		
482	山田町	11,418	4,175	18,625	6,605	61.3	63.2		
483	岩泉町	1,137	431	10,804	4,355	10.5	9.9		
484	田野畑村	1,582	526	3,843	1,309	41.2	40.2		
485	普代村	1,115	380	3,088	1,042	36.1	36.5		
503	野田村	3,177	1,069	4,632	1,576	68.6	67.8		
507	洋野町	2,733	932	17,910	6,117	15.3	15.2		
合 計		107,503	39,673	274,114	101,900	39.2	38.9		

地域		浸水範囲概況にかかる人口及び世帯数(a)		当該市区町村の人口及び世帯数(b)		浸水範囲概況の割合(%) (a)÷(b)×100		
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	
04	宮城県							
	102	宮城野区	17,375	6,551	190,485	85,790	9.1	7.6
	103	若林区	9,386	2,698	132,191	58,891	7.1	4.6
	104	太白区	3,201	1,136	220,715	91,585	1.5	1.2
	202	石巻市	112,276	42,157	160,704	57,812	69.9	72.9
	203	塩竈市	18,718	6,973	56,490	20,314	33.1	34.3
	205	気仙沼市	40,331	13,974	73,494	25,464	54.9	54.9
	207	名取市	12,155	3,974	73,140	25,150	16.6	15.8
	209	多賀城市	17,144	6,648	62,979	24,047	27.2	27.6
	211	岩沼市	8,051	2,337	44,198	15,530	18.2	15.0
	214	東松島市	34,014	11,251	42,908	13,995	79.3	80.4
	361	亘理町	14,080	4,196	34,846	10,899	40.4	38.5
	362	山元町	8,990	2,913	16,711	5,233	53.8	55.7
	401	松島町	4,053	1,477	15,089	5,149	26.9	28.7
	404	七ヶ浜町	9,149	2,751	20,419	6,415	44.8	42.9
	406	利府町	542	192	34,000	10,819	1.6	1.8
	581	女川町	8,048	3,155	10,051	3,968	80.1	79.5
	606	南三陸町	14,389	4,375	17,431	5,295	82.5	82.6
		合計	331,902	116,758	1,205,851	466,356	27.5	25.0

県	市区町村	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	
07	福島県							
	204	いわき市	32,520	11,345	342,198	128,516	9.5	8.8
	209	相馬市	10,436	3,076	37,796	13,240	27.6	23.2
	212	南相馬市	13,377	3,720	70,895	23,643	18.9	15.7
	541	広野町	1,385	444	5,418	1,810	25.6	24.5
	542	楡葉町	1,746	543	7,701	2,576	22.7	21.1
	543	富岡町	1,401	552	15,996	6,141	8.8	9.0
	545	大熊町	1,127	359	11,511	3,955	9.8	9.1
	546	双葉町	1,278	402	6,932	2,393	18.4	16.8
	547	浪江町	3,356	1,006	20,908	7,171	16.1	14.0
	561	新地町	4,666	1,400	8,218	2,461	56.8	56.9
		合計	71,292	22,847	527,573	191,906	13.5	11.9

県	市区町村	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	
08	茨城県							
	201	水戸市	1,209	379	268,818	111,992	0.4	0.3
	202	日立市	7,211	2,791	193,129	77,932	3.7	3.6
	214	高萩市	1,519	596	31,014	11,656	4.9	5.1
	215	北茨城市	7,212	2,725	47,026	16,965	15.3	16.1
	221	ひたちなか市	5,616	2,049	157,012	60,276	3.6	3.4
	222	鹿嶋市	3,794	1,163	66,030	25,222	5.7	4.6
	232	神栖市	3,752	1,190	94,823	35,760	4.0	3.3
	234	鉾田市	3,667	1,160	50,161	16,946	7.3	6.8
	309	大洗町	3,982	1,482	18,331	7,020	21.7	21.1
	341	東海村	2,172	748	37,430	14,109	5.8	5.3
		合計	40,134	14,283	963,774	377,878	4.2	3.8

県	市区町村	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	
12	千葉県							
	202	銚子市	2,088	856	70,225	26,948	3.0	3.2
	215	旭市	8,303	2,844	69,074	23,121	12.0	12.3
	235	匝瑳市	2,892	909	39,826	12,869	7.3	7.1
	237	山武市	5,358	1,719	56,086	19,297	9.6	8.9
	402	大網白里町	922	330	50,122	18,117	1.8	1.8
	403	九十九里町	7,766	2,937	18,009	6,617	43.1	44.4
	410	横芝光町	1,813	615	24,679	8,278	7.3	7.4
	421	一宮町	2,293	851	12,042	4,452	19.0	19.1
	423	長生村	378	126	14,751	5,030	2.6	2.5
	424	白子町	3,718	1,303	12,151	4,257	30.6	30.6
		合計	35,531	12,490	366,965	128,986	9.7	9.7

合計	602,200	211,426	3,674,245	1,396,692	16.4	15.1
----	---------	---------	-----------	-----------	------	------

注)

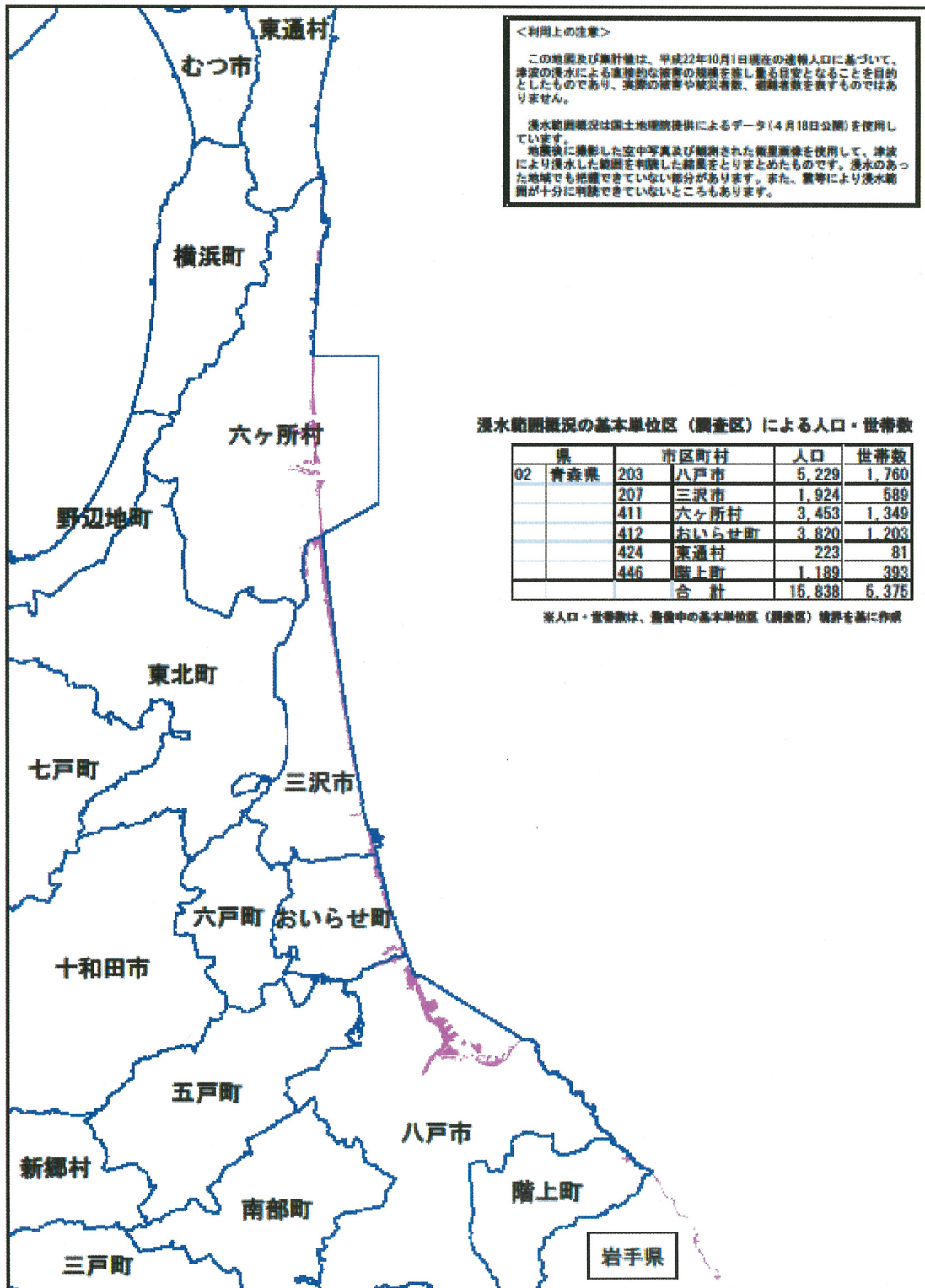
○ この集計値は、平成22年10月1日現在の速報人口に基づいて、津波の浸水による直接的な被害の規模を推し量る目安となることを目的としたものであり、実際の被害や被災者数、避難者数を表すものではありません。

○ 浸水範囲概況は、国土地理院提供によるデータ(4月18日公開)を使用しています。

航空写真・衛星画像等から推定したものであり、現地踏査で確認したものでないため、実際とは異なる場合があります。

総務省統計局

## 青森県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



**<利用上の注意>**  
 この地図及び集計値は、平成22年10月1日現在の速報人口に基づいて、津波の浸水による直接的な被害の規模を推し量る目安となることを目的としたものであり、実際の被害や被災者数、避難者数を表すものではありません。  
 浸水範囲概況は国土地理院提供によるデータ(4月18日公開)を使用しています。  
 地震後に撮影した空中写真及び縮刷された衛星画像を使用して、津波により浸水した範囲を判別した結果をとりまとめたものです。浸水のあった地域でも把握できていない部分があります。また、雲等により浸水範囲が十分に判別できていないところもあります。

浸水範囲概況の基本単位区(調査区)による人口・世帯数

県	市区町村	人口	世帯数
02 青森県	203 八戸市	5,229	1,760
	207 三沢市	1,924	589
	411 六ヶ所村	3,453	1,349
	412 おいらせ町	3,820	1,203
	424 東通村	223	81
	446 階上町	1,189	393
	合計	15,838	5,375

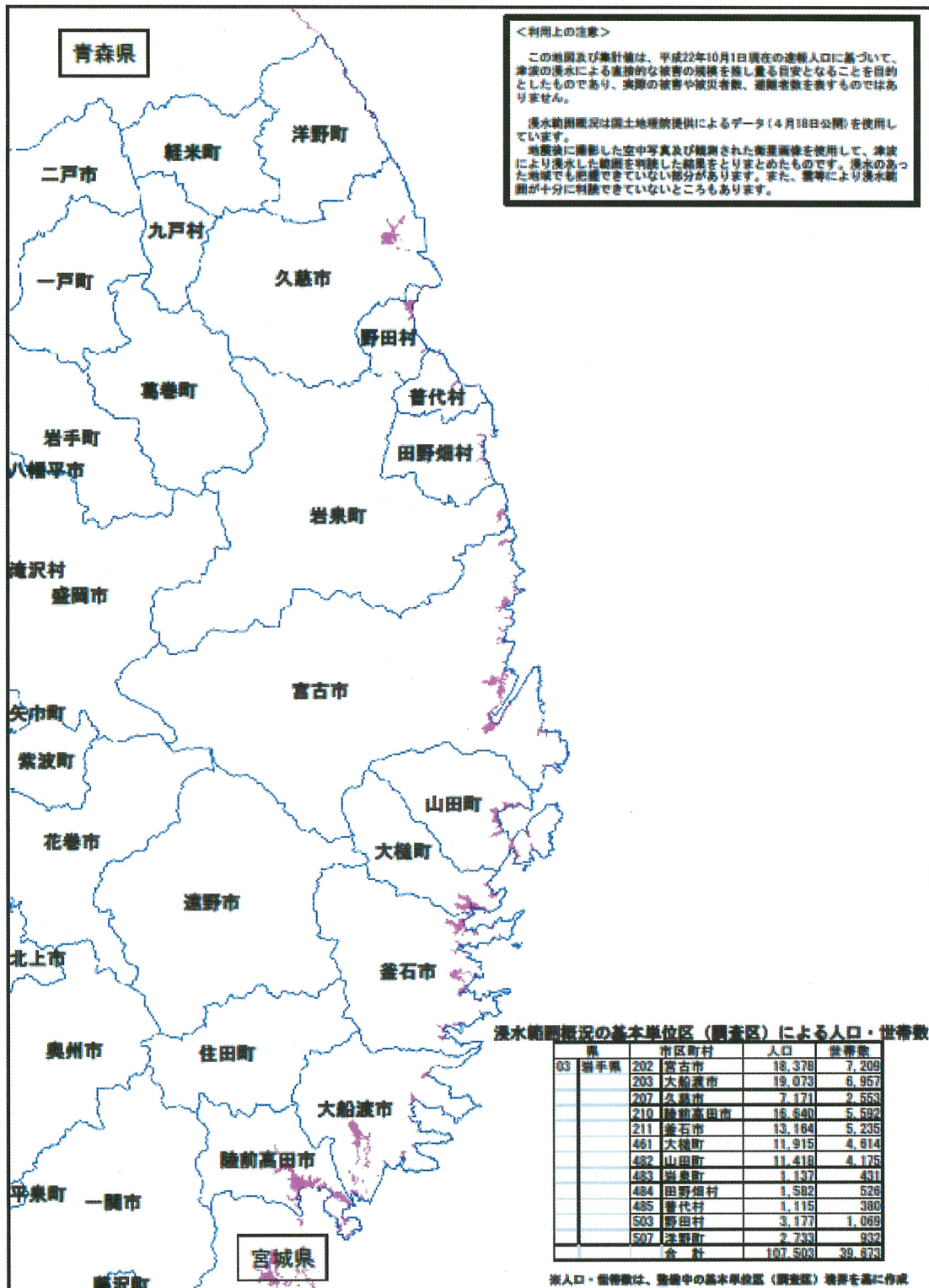
※人口・世帯数は、調査中の基本単位区(調査区)境界を基に作成

出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室



# 岩手県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



浸水範囲概況の基本単位区(調査区)による人口・世帯数

県	市区町村	人口	世帯数
03 岩手県	202 宮古市	18,378	7,209
	203 大船渡市	19,073	6,957
	207 久慈市	7,171	2,553
	210 陸奥高田市	18,640	5,582
	211 釜石市	13,184	5,235
	461 大槌町	11,915	4,614
	482 山田町	11,418	4,175
	483 岩泉町	1,137	431
	484 田野畑村	1,582	528
	485 普代村	1,115	380
	503 野田村	3,177	1,069
	507 津野町	2,733	932
	合計	107,509	39,673

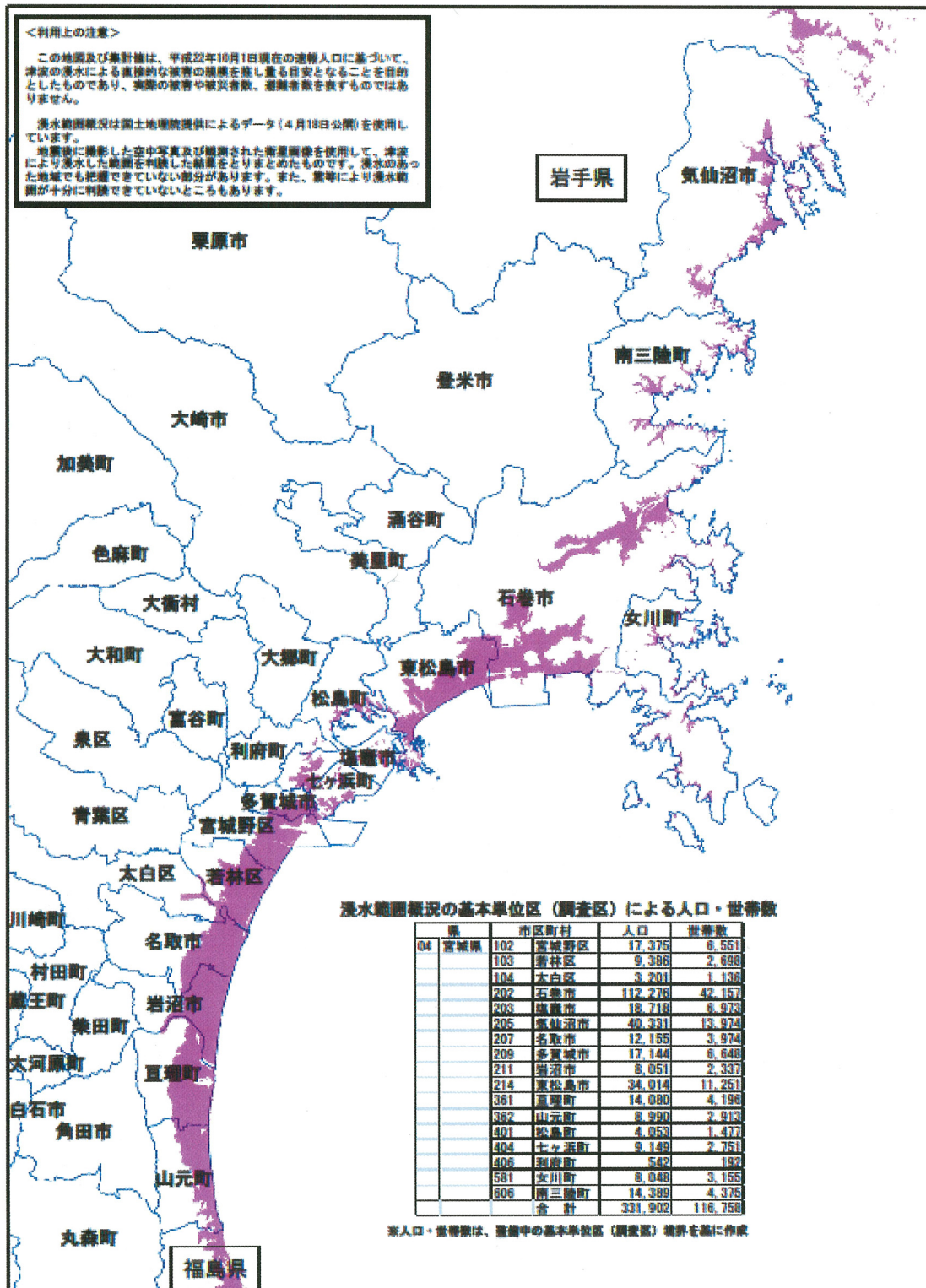
※人口・世帯数は、表中の基本単位区(調査区)境界を基に作成

出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室



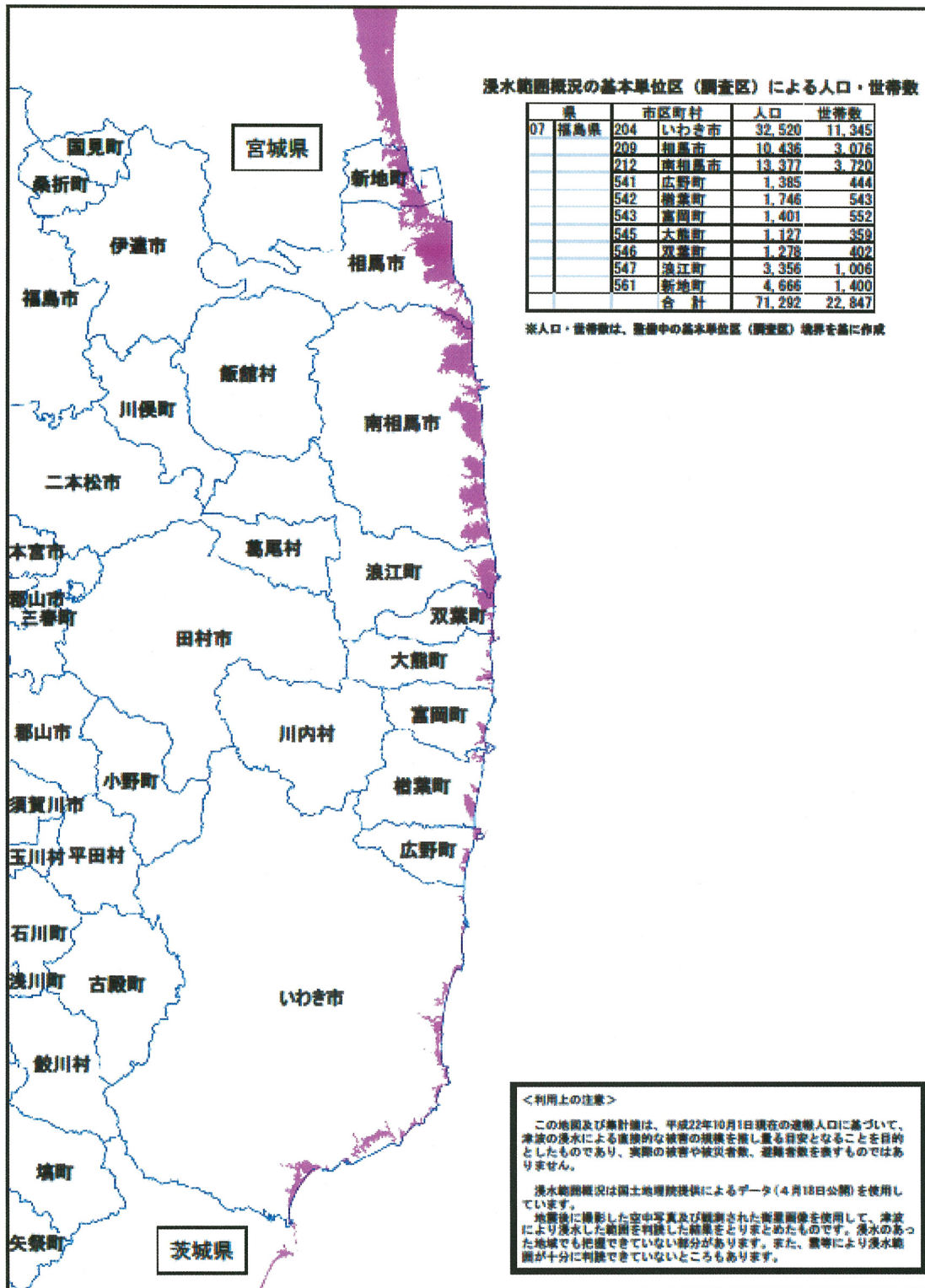
## 宮城県への浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室

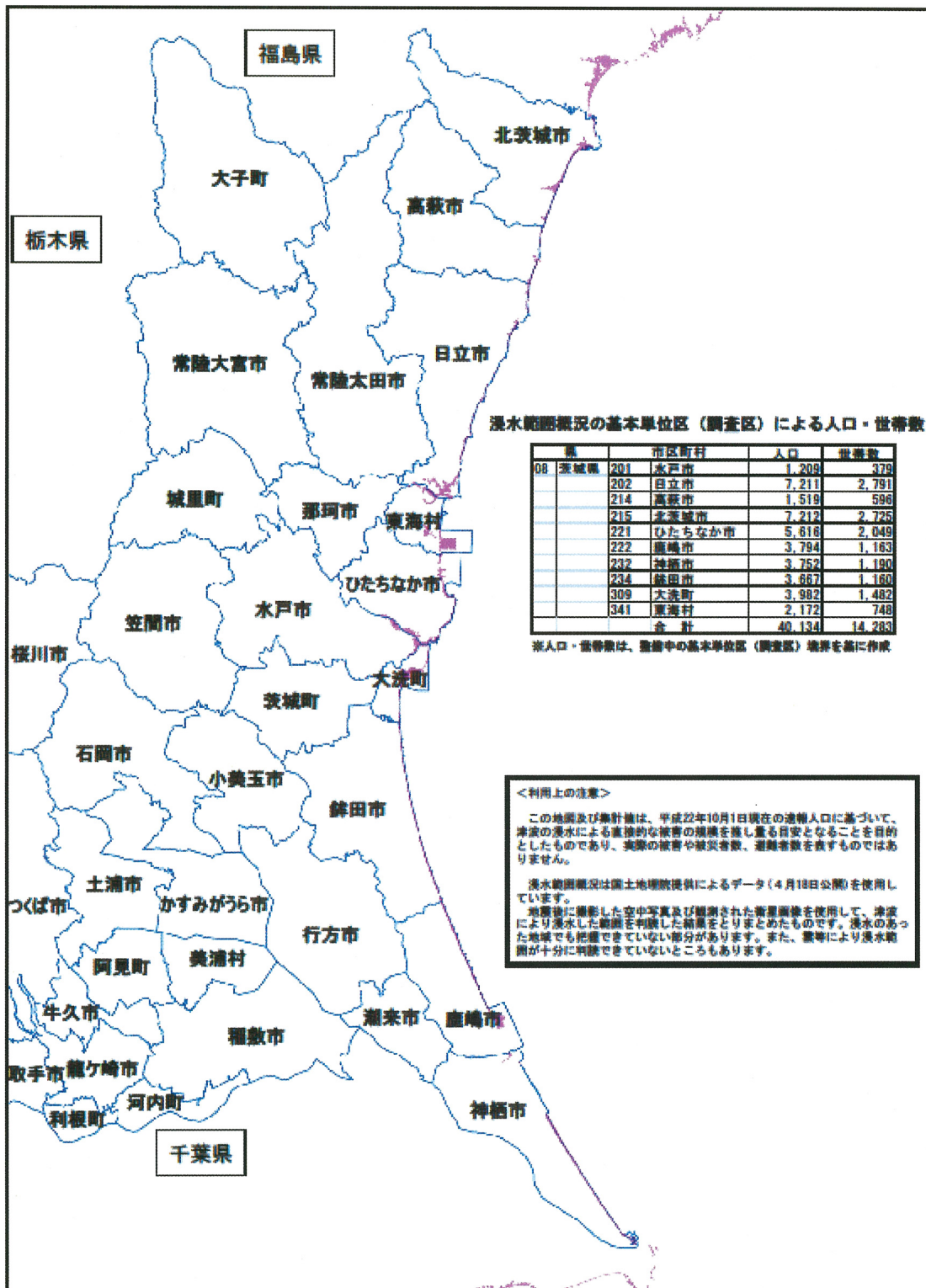
# 福島県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室

# 茨城県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



浸水範囲概況の基本単位区(調査区)による人口・世帯数

調査区	市区町村	人口	世帯数
08	茨城県 201 水戸市	1,209	379
	202 日立市	7,211	2,791
	214 高萩市	1,519	596
	215 北茨城市	7,212	2,725
	221 ひたちなか市	5,818	2,049
	222 鹿嶋市	3,794	1,183
	232 神栖市	3,752	1,190
	234 鉾田市	3,667	1,160
	309 大洗町	3,982	1,482
	341 東海村	2,172	748
	合 計	40,134	14,283

※人口・世帯数は、調査中の基本単位区(調査区)境界を基に作成

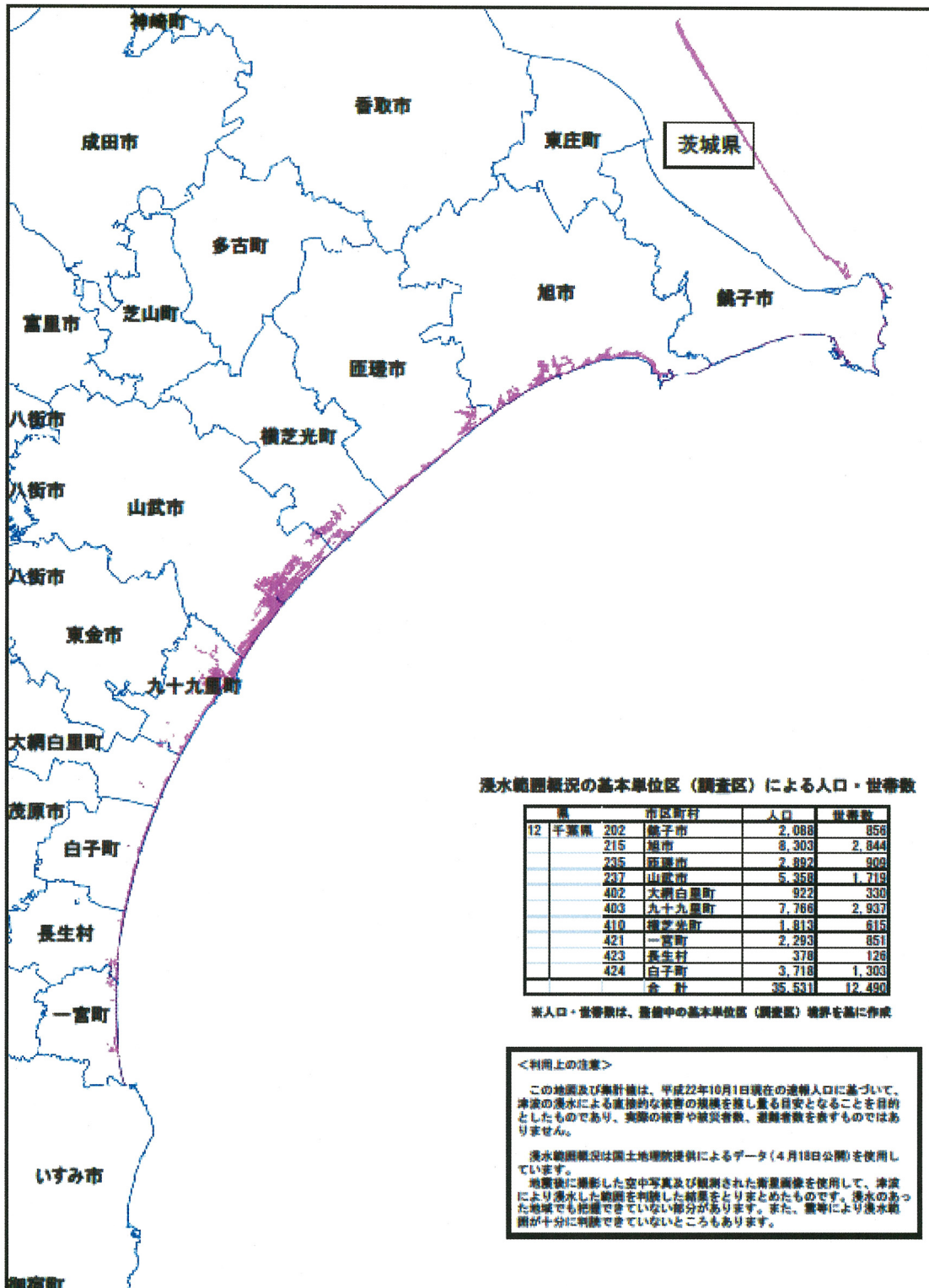
**<利用上の注意>**  
 この地図及び集計値は、平成22年10月1日現在の速報人口に基づいて、  
 津波の浸水による直接的な被害の規模を推し量る目安となることを目的  
 としたものであり、実際の被害や被災者数、避難者数を表すものではあ  
 りません。  
 浸水範囲概況は国土地理院提供によるデータ(4月18日公開)を使用し  
 ています。  
 衛星画像に撮影した空中写真及び観測された衛星画像を使用して、津波  
 により浸水した範囲を判別した結果をとりまとめたものです。浸水のあつ  
 た地域でも把握できていない部分があります。また、雲等により浸水範  
 囲が十分に判別できていないところもあります。

出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室



## 千葉県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



浸水範囲概況の基本単位区(調査区)による人口・世帯数

県	市区町村	人口	世帯数	
12 千葉県	202 鏡子市	2,088	856	
	215 旭市	8,303	2,844	
	235 匝環市	2,892	909	
	237 山武市	5,358	1,719	
	402 大網白里町	922	330	
	403 九十九里町	7,766	2,937	
	410 横芝光町	1,813	615	
	421 一宮町	2,293	851	
	423 長生村	378	126	
	424 白子町	3,718	1,303	
		合計	35,531	12,490

※人口・世帯数は、調査中の基本単位区(調査区)境界を基に作成

<利用上の注意>  
 この地図及び集計値は、平成22年10月1日現在の速報人口に基づいて、津波の浸水による直接的な被害の規模を推し量る目安となることを目的としたものであり、実際の被害や被災者数、避難者数を表すものではありません。  
 浸水範囲概況は国土情報提供によるデータ(4月18日公開)を使用しています。  
 地盤後に撮影した空中写真及び観測された衛星画像を使用して、津波により浸水した範囲を判別した結果をとりまとめたものです。浸水のあった地域でも把握できていない部分があります。また、雲等により浸水範囲が十分に判別できていないところもあります。

出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室

これらを見ると東北地方と茨城県、千葉県のパシフィック沿岸地域において、いかに広範囲にわたって津波による浸水があったかがうかがえるだろう。

また、この地震及び津波による人的被害や建物被害も当然被災地を考える上では考慮されるべき事柄である。以下にあげるのは、警察庁発表の各地の震災の被害状況を示した表である（被害状況と警察措置（2012/03/05） <http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/higaijokyo.pdf>）。ここからも、やはり岩手県、宮城県、福島県を中心とした太平洋沿岸一帯が被害を被っている様子がうかがえる。

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置

災害種別	人的被害					建物被害							道路 損壊 箇所	橋 梁 被 害 箇所	山 崖 崩 れ 箇所	堤 防 決 壊 箇所	鉄 道 損 壊 箇所		
	死 者 人	行 方 不 明 人	負傷者			全 壊 戸	半 壊 戸	流 失 戸	全 焼 戸	半 焼 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸						一 部 破 壊 戸	非 住 家 被 害 戸
			重 傷 人	軽 傷 人	合 計 人														
都道府県																			
北海道	1			3	3		4			329	545	7	469						
東北	青森	3	1	16	45	61	311	852					832	1194	2				
	岩手	4671	1302			198	20185	4562	15	1761	323	7716	4752	30	4	6			
	宮城	9512	1754			4133	83932	138721	135	15408	12842	216414	34094	390	29	51	45	26	
	秋田			4	8	12							3	3	9				
	山形	2		8	21	29	37	80							21		29		
	福島	1605	214	20	162	182	20141	65123		77	3	1053	340	147334	1116	187	3	9	
東京	7		14	76	90		11	3				257	20	13		3			
関東	茨城	24	1	33	674	707	3080	24129	31	1721	713	174561	14597	307	41				
	栃木	4		7	127	134	265	2074				69285	295	257		40		2	
	群馬	1		13	25	38		7				17246		36		9			
	埼玉			6	36	42	24	194	1	1		1	1800	33	160				
	千葉	20	2	25	226	251	798	9861	15	154	722	44162	660	2343		55		1	
	神奈川	4		17	115	132		38				407	13	162	1	3			
	新潟				3	3						9	7						
	山梨				2	2						4							
	長野				1	1													
静岡			1	2	3						5	13	9						
中部	岐阜														1				
三重				1	1					2			9						
四国	徳島									2	9								
高知				1	1					2	8								
合計	15854	3274			6023	128773	245656		281	20427	15508	680050	57271	3918	78	205	45	29	

※ 未確認情報を含む。

※ 4月7日に発生した宮城県沖を震源とする地震、4月11日に発生した福島県浜通りを震源とする地震、5月22日に発生した千葉県北東部を震源とする地震、4月12日に発生した福島県浜通りを震源とする地震、5月22日に発生した千葉県北東部を震源とする地震、7月25日に発生した福島県沖を震源とする地震、7月31日に発生した福島県沖を震源とする地震、8月12日に発生した福島県沖を震源とする地震、8月19日に発生した福島県沖を震源とする地震、9月10日に発生した茨城県北部を震源とする地震、10月10日に発生した福島県沖を震源とする地震及び11月20日に発生した茨城県北部を震源とする地震の被害を含む。

地震、津波だけでなく、福島第一原発の事故による影響が大きい地域もまた被災地と考えられる。下の地図は原発の影響による警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域及び特定避難勧奨地点がある地域の概要図である（経済産業省 web サイト内 <http://www.meti.go.jp/press/2011/09/20110930015/20110930015-12.pdf>）。



以上のような概況から、今回の研究報告では、地震・津波の被害が大きかった青森県から千葉県までの太平洋沿岸市町村と、福島県の警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域の全域を被災地として考えることとした（緊急時避難準備区域は2011年9月30日に解除されたが、本報告では当初の設定のままこれを被災地として考えることとする）。ただし報告内容によっては、被害が大きかった東北地方を中心に据えたり、より地域を限定した上で議論を展開しているものもある。



### 3 被災地の方言の特徴

ここでは、被災地と方言の関係を考えていく上で土台となる、被災地の方言の特徴を概観していくこととする。方言的には茨城県や千葉県も東北の方言に類する点もあるので、主に東北方言を中心に話を進める。

#### 3.1 ズーズー弁 — 「ジ」と「ズ」の区別 —

東北方言と言えば「ズーズー弁」と言われるように、東北以外の人にとってはこの「ズーズー弁」と呼ばれるような発音が耳につくようである。一般にジ(ヂ)とズ(ヅ)(及びシとス、チとツ)を区別しないものを「ズーズー弁」と呼んでいるが、同じ東北内でもその現れ方には若干の差異がある。すなわち、「ジ(ヂ)、ズ(ヅ)」が「ジ」に近くなる地域と「ズ」に近くなる地域があり、また、東北にあっても「ジ」と「ズ」の区別がある地域がある。

今回の被災地に当てはめると、青森県とそれに隣接する岩手県の一部が「ジ」に近い音となる地域であり(例:「知事」「地図」→「チジ」)、岩手県沿岸中部から宮城県、福島県北部は「ズ」に近くなる地域(例:「知事」「地図」→「ツズ」)、岩手県の岩泉町、田野畑村付近と福島県南部以南は「ジ」と「ズ」を区別する地域、ということになる(図1参照)。

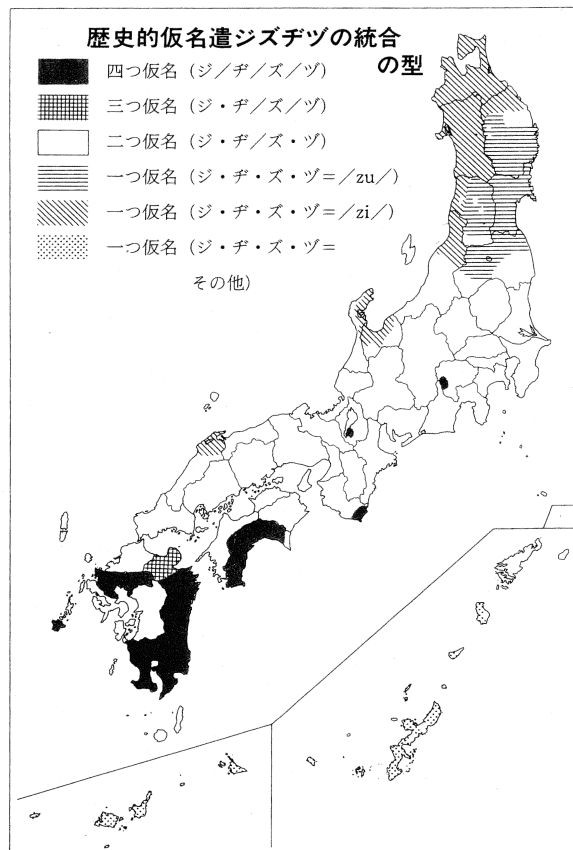


図1：ジズヂツの統合の型  
〔上野他編(1989)より引用〕

### 3.2 「柿」と「鍵」、「的」と「窓」— 語中・語尾の濁音化、鼻濁音化 —

「柿」が「カギ」[kagi]、「的」が「マド」[mado]となるような、語中・語尾のカ行・タ行子音が濁音化するという現象も被災地域を含む東北一般に見られるものである。

それでは「柿」は「鍵」と、「的」は「窓」と区別できなくなるかと言うと、必ずしもそうではない。「鍵」の場合、共通語と同じく発音は [kani] となり、「ギ」の部分が鼻にかかった音（鼻濁音）となるため、区別できる。「窓」の場合は大部分の地域では [ma˜do] となり、これも「ド」の部分が鼻にかかった音となり、「的」とは区別される。ザ行やバ行の音も同じく鼻にかかった音になり、「数」は [ka˜zu]、「壁」は [ka˜be] となる。ただし、岩手県の三陸沿岸地域の一部や福島県以南にはダ行、ザ行、バ行の鼻濁音はなく、「的」と「窓」が同じく「マド」[mado]となっている（図3、図4参照）。

	「柿」		「鍵」
共通語	[kaki]	←kとŋの対立→	[kani]
方言	[kagi]	←gとŋの対立→	[kani]
	「的」		「窓」
共通語	[mato]	←tとdの対立→	[mado]
方言	[mado]	←dと˜dの対立*→	[ma˜do]
	（※岩手県三陸沿岸地域の一部や 福島県以南にはこの対立はない）		

図2：「柿」と「鍵」、「的」と「窓」の音素の関係

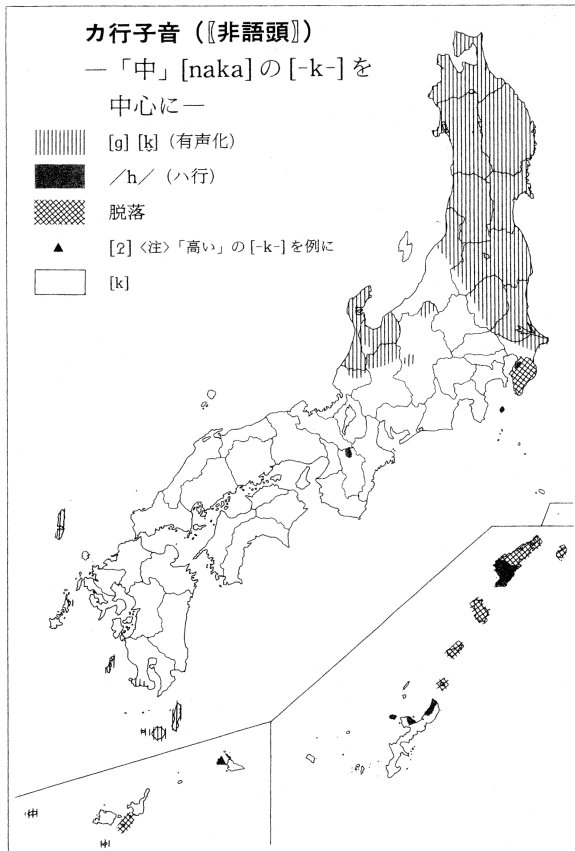


図3：カ行子音（非語頭）の音韻の分布  
〔上野他編（1989）より引用〕

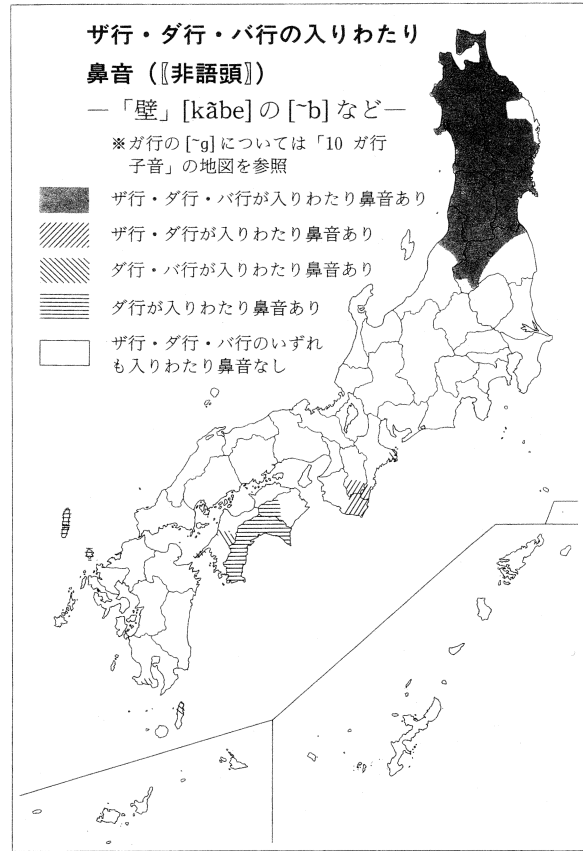


図4：ザ行・ダ行・バ行の入りわり鼻音（非語頭）の分布  
〔上野他編（1989）より引用〕

### 3.3 「雨」と「飴」、「箸」と「橋」— アクセント —

例えば「雨」(アメ)と「飴」(アメ)、「箸」(ハシ)と「橋」(ハシ)などは、共通語ではその音の高低(アクセント)によってそれぞれの単語が区別される。しかし、宮城県南から福島県、茨城県にかけて、これらの区別を持たない無アクセント地域が広がっている(図5における▲の地域)。これも被災地の方言として大きな特徴と言えるだろう。

被災地の中でも上記以外の地域は、アクセントを有している地域である。その中で、岩手県三陸沿岸中部の山田町や宮古市では、重起伏調という特徴的なアクセントが用いられていることが報告されている。多くの方言において、1つの単語の中で高い部分は1箇所であるが、重起伏調の方言では、1つの単語の中で高い部分が2箇所出てくることがあるのである。

- 例) 「鶏」 ⇒ ニワトリ (共通語) / ニワドリ (宮古市方言)  
 「喜ぶ」⇒ ヨロコブ (共通語) / ヨロコブ (宮古市方言)

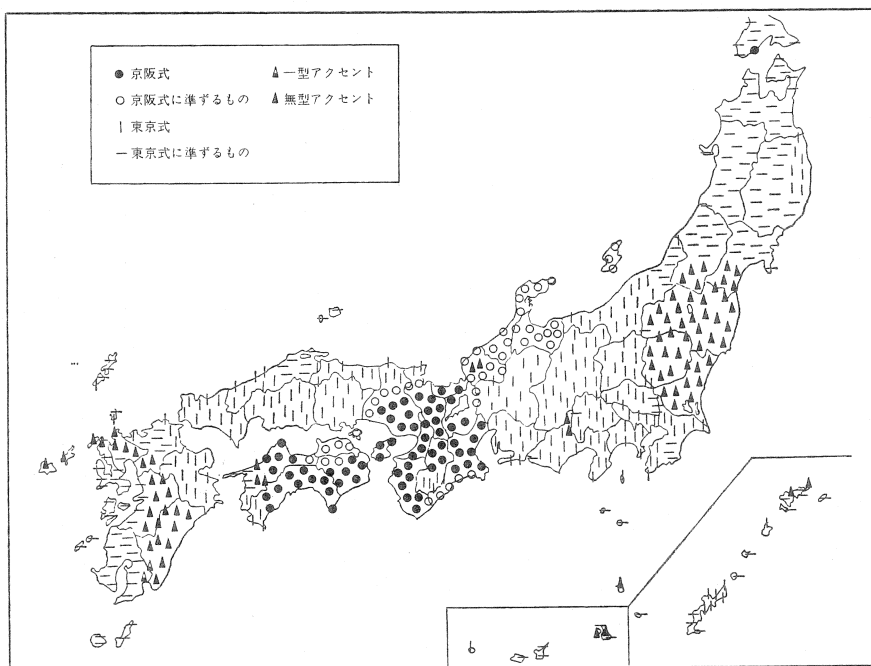


図5：アクセントの分布

〔佐藤亮一(2007)より引用〕

### 3.4 「東の方サ行け」と「ここサある」— 方向を示す助詞「サ」—

「東京サ行く」のように、方向を示す「サ」も東北方言として有名であるが、これは東北六県のほか、栃木県や茨城県などにも分布している。この「サ」の用法は共通語の「へ」だけでなく「に」の分野をも一部占めているが、被災地においてもその用法の幅は様々である。



例えば「東の方へ行け」(移動の目標、図6参照)という文では被災地のほぼ全域で「サ」を用いることができるが、「おれに貸せ」(授与の相手、図7参照)という文では茨城県全域と福島県で「サ」を用いることが出来なくなる。また、「見に行く」(移動の目的(動詞連用接続)、図8参照)という文では茨城県と青森県で使用出来ないところが出てくる(日本海側はほとんど使用できない)。「ここにある」(存在の場所、図9参照)という文にいたっては福島県と青森県の一部を除いてほとんどの被災地で「サ」は使えない、という具合である。

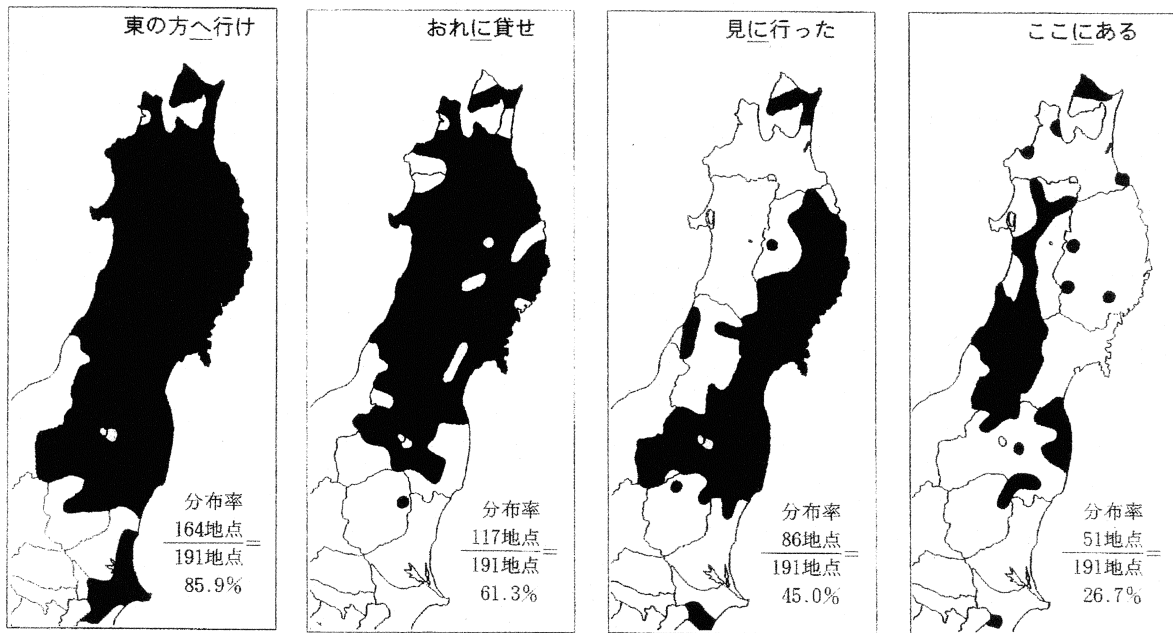


図6：東の方へ行け

図7：俺に貸せ

図8：見に行った

図9：ここにある

〔図6～図9：小林(1995)より引用〕

### 3.5 「がんばっぺ！ みやぎ」—意志をあらわす「べ」—

街中で「頑張っぺ 東北」などというスローガンが書かれているポスターや看板を目にしたことはないだろうか。震災の救援活動に取り組む自衛隊員がヘルメットに応援メッセージが入ったステッカーを貼っているとニュースにもなったが、そこに書かれていたのも「がんばっぺ！ みやぎ」だった。

これらは「頑張ろう東北」「頑張ろう！ みやぎ」といった意味であるが、このような意志(勧誘)表現で「べ」や「ぺ」が使われるのも東北や関東の方言として有名なものである。

ただ、図10をよく見てみると、東北でも全体で使われているわけではなく、日本海沿岸ではあまり用いられていないことがわかる(▲▼△▽の記号が日本海沿岸にあらわれていない)。ここから、「べ」や「ぺ」を使った意志表現は、特に被災地がある太平洋側で活発に用いられている表現だといえよう。



図10：起きよう（意志形）の分布  
〔彦坂（2002）より引用〕

#### 4 おわりに

以上、被災地の概況とその被災地の方言の基本的な特徴を見てきた。方言に関しては、被災地全体に通じる特徴もあれば、被災地の中でも地域によって異なるものもあることがわかる。もちろんここであげたものだけが方言の特徴というわけではない。より細かい各地の方言の特徴に関しては以降の報告に譲ることとする。

ここであげたものを基本的な情報として、以降では、このような方言が震災の影響によってどのように変化し、それをどのように記録・保存するのかといった点や、被災地において方言をどう利用するか、逆に被災地において方言がどのような問題を持つかについて、詳しく見ていく。

#### 文 献

上野善道他編（1989）「音韻総覧」尚学図書編『日本方言大辞典』下 小学館  
 大西拓一郎（1989）「岩手県山田町方言のアクセント」『国語学研究』29  
 加藤正信（1969）「東北方言概論」『言語生活』210  
 小林隆（1995）「東北方言における格助詞「サ」の分布と歴史」『東北大学文学部研究年報』44

佐藤喜代治（1966）「岩手県三陸地方北部の言語調査報告」『日本文化研究所研究報告別巻』4  
佐藤亮一（2007）「方言のアクセント」飛田良文他編『日本語学研究辞典』明治書院  
柴田武（1962）「岩手県岩泉付近の非ズーズー弁」『国語学研究』2  
田中宣廣（2005）『付属語アクセントからみた日本語アクセントの構造』おうふう  
彦坂佳宣（2002）「地方語史の開拓と方言地理学— 一段活用類意志形の五段化をめぐって —」馬  
瀬良雄監修；佐藤亮一他編『方言地理学の課題』明治書院

**参照 web サイト**（すべて 2012/03/06 アクセス）

経済産業省「東京電力株式会社福島第一原子力発電所について—原子力被災者支援—」

<<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>>

警察庁「東日本大震災について」<<http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/index.htm>>

総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所「東日本大震災関連情報—総務省統計局・  
政策統括官（統計基準担当）の統計調査等関連の取り組み」

<<http://www.stat.go.jp/info/shinsai/index.htm>>

YOMIURI ONLINE「がんばっぺ！お国なまりで自衛隊員、被災地応援」

<<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110329-OYT1T00428.htm>>